

Ⅱ 亀岡遺跡発掘調査報告

1. はじめに

広島市教育委員会では、昭和59年4月、広島市安佐南区祇園町大字長束字亀岡の丘陵の造成計画を知り、分布調査を行った結果、埋蔵文化財の存在することを確認した。そこで、造成主であるアサ開発株式会社とその取扱いについて協議を行ったが、地形的条件から設計変更等による現状保存は不可能であり、記録保存もやむを得ないとの結論にいたった。これをうけて、広島市教育委員会は、昭和59年6月14日から6月21日まで、池の内遺跡と並行して、発掘調査を実施した。

2. 調査の概要

亀岡遺跡は、広島市安佐南区祇園町大字長束字亀岡に所在する。本遺跡は、低丘陵の尾根上にあり、眼前に太田川の沖積地が広がる良好な場所に立地している。この低丘陵は、現状では、独立丘陵となっているが、本来は、標高356mの景浦山から北東へ派生した丘陵の先端部にあたり、周辺が宅地化された結果、独立丘陵を呈するようになったものである。尾根の現状は、後世の地形変更が著しく、自然地形を残している部分は少なかった。調査は、この自然地形の残存している東側部分について実施した。その結果、箱式石棺1基と壺棺1基を検出した。

箱式石棺（第38図）

本石棺は、現存する尾根の東北端、斜面にかかる部分に位置し、本遺跡発見の契機となった箱式石棺である。石棺を埋置した墓壇の掘り方は、地山に達しておらず、土層観察などによっても、掘り方を明確にすることはできなかった。

本石棺は、内法で長さ92cm、幅24cm、深さ27cmを測る小形のものである。石棺の主軸はN71°Eを指す。石棺の四壁は7枚の板石からなり、小口に各1枚、北壁に2枚、南壁に3枚配されている。板石は東小口のを縦方向に使用しているが、他の6枚は横方向に使用している。また、東側に比較的大きな石材を使用している。蓋石は、2枚現存しており、大形の方は、50cm×60cmを測る。石棺の規模からみて、西寄りの1枚を欠失したものと推定される。蓋石の上面及び縁辺には大小の角礫が置かれている。

本石棺の頭位は、棺材の配置状況から東寄りと考えられる。また、その規模から小児用と推定される。

なお、棺内から遺物は出土しなかった。

壺 棺（第38図）

壺棺は、箱式石棺の南約1.5m、地山が急傾斜で南側へ落ちる地点にある。壺棺を埋置したと考えられる墓壇の掘り方は、北側から東側にかけての一部しか検出できなかったため、墓壇の形状、規模は不明である。墓壇の底面は、壺の形状に対応して中央が深くなっている。壺は、底面から5cmほど上に口縁部を東側に向けて横向きに埋置され、主軸はN69°Eを指す。埋置された状態で壺の体部の上面にあたる部分は割れ、一部を欠失しているが、内部に落ち込んだ破片の状況から、後世の破壊を受けたものと考えられる。壺の口縁部に接して、縦14cm、横22cm、厚さ6cmと縦5cm、横15cm、厚さ2cmを測る大小2枚の板石が検出された。これらの板石は、その位置関係から、木蓋の支えあるいは石蓋として使用された可能性がある。この壺棺は、規模から小児用と考えられる。

なお、棺内から遺物は出土しなかった。

遺 物

遺物は、遺跡の西側表土中から須恵器が少量出土しているが、小片のため図示することはできなかった。また、箱式石棺、壺棺の周辺からは、遺物は出土していない。

土師器（第39図）

壺棺に使用されたものである。二重口縁を呈するもので、口径21.0cm、胴部最大径35.1cm、器高44.5cmを測る。口縁部は、強く外反した後、明瞭な稜線を呈して屈曲し、厚みを減じつつ外反気味に立ち上る。口縁端部は平らに仕上げている。胴部は球形を呈し、底部は丸底に近い。内面の頸部以下はヘラ削り、外面の口縁部から胴部下半まではハケ目調整がみられる。

3. ま と め

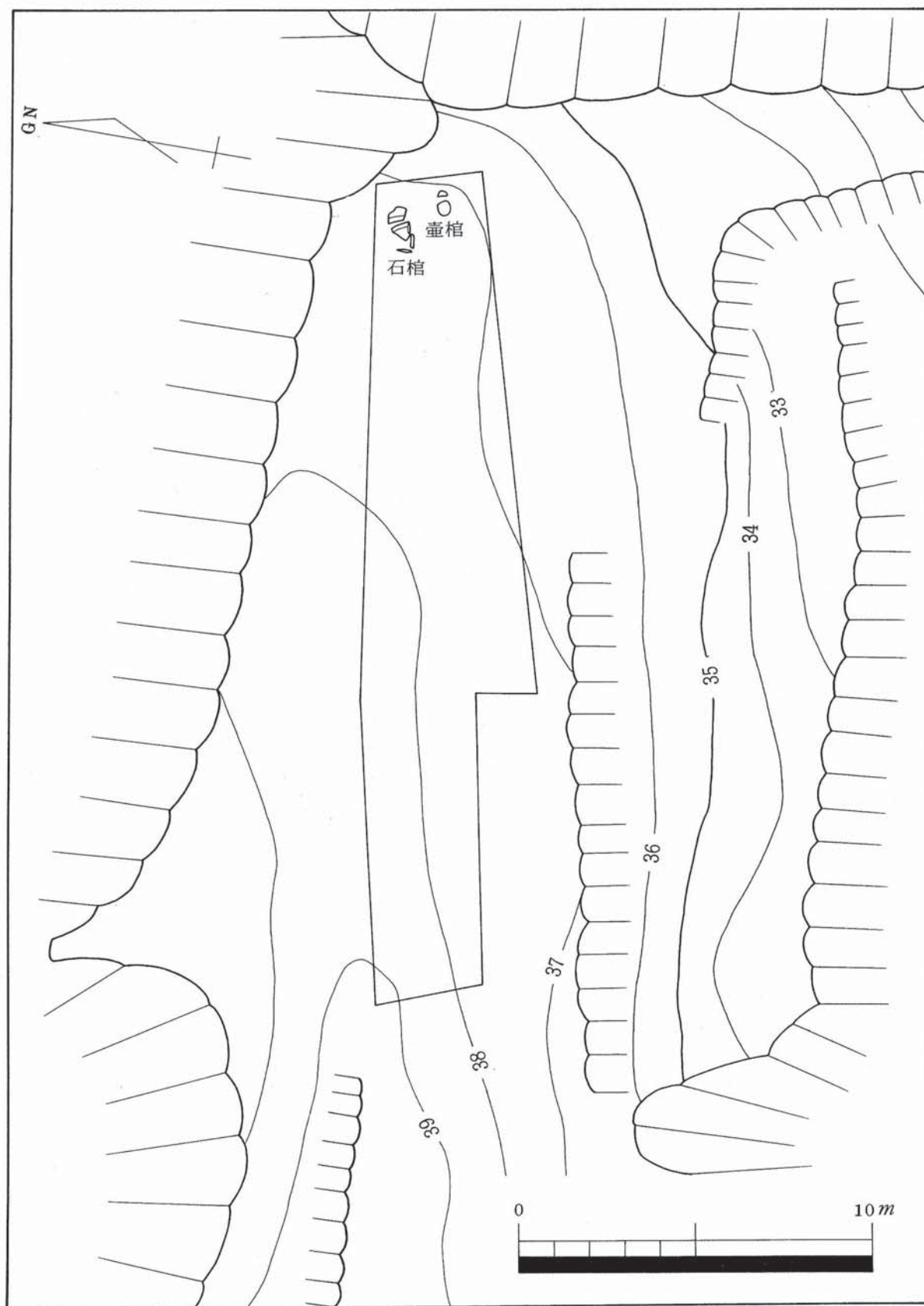
調査の結果、本遺跡からは、箱式石棺1基と壺棺1基が検出された。いずれも、その規模から小児用と考えられる。

本遺跡の存在する尾根は、大部分が削平されているため、明確にすることはできないが、①本遺跡の西側から須恵器の細片が出土していること、②本遺跡の西約200mの地点にある文化女子短大グランド遺跡とは、本来同一尾根であることから、本遺跡は、小児用の埋葬施設2基にとどまるものとは考えられない。

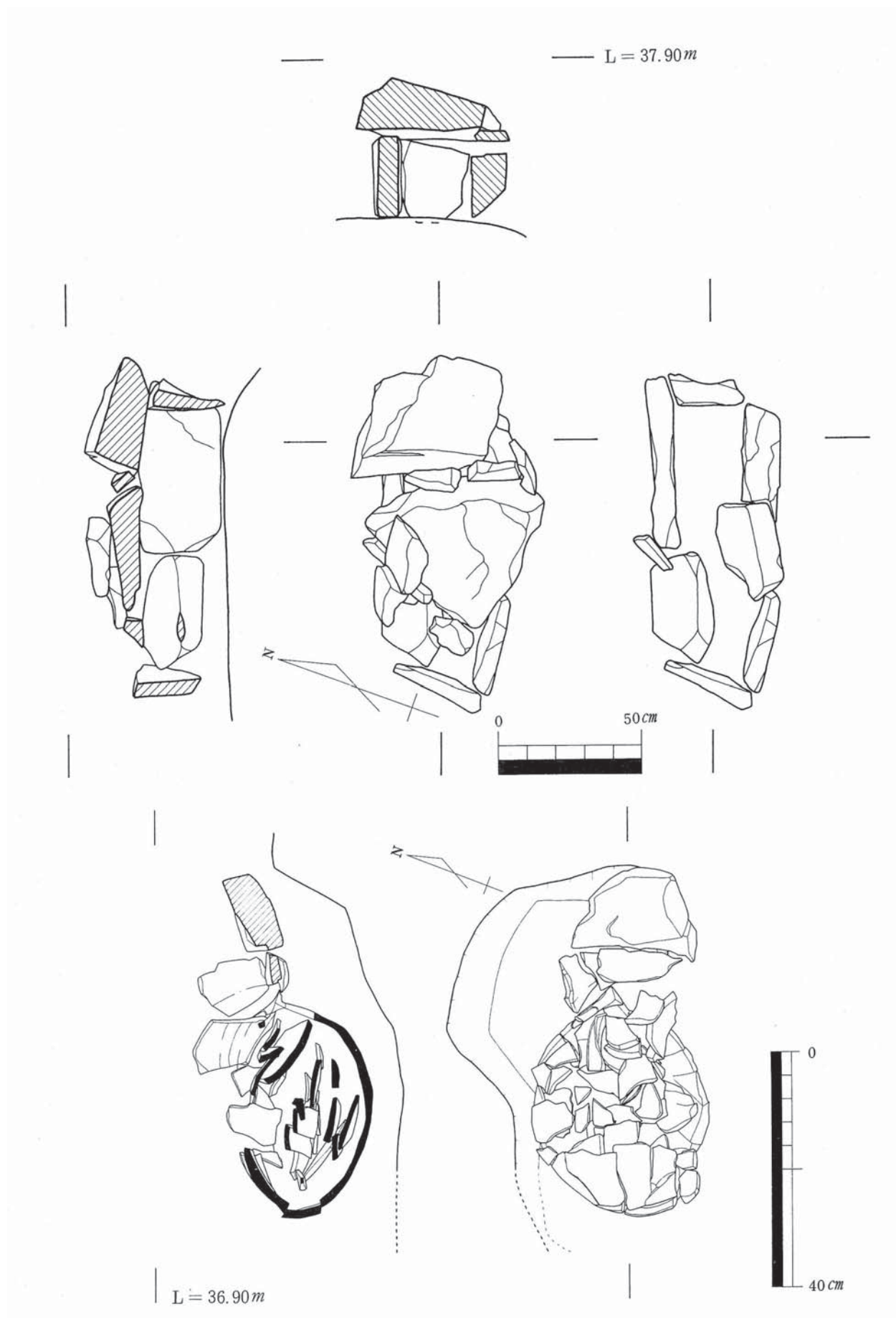
壺棺の時期は、使用された土師器の口縁部の形態的特徴などから、4世紀の後半から5世紀初頭と推定できよう。箱式石棺は、尾根の中心線に近い位置にあり、壺棺よりも良好な場所に位置している。このことからみて、壺棺は箱式石棺を意識して傾斜面に埋置された可能性がある。このような占地からみると、箱式石棺が壺棺にやや先行するようであるが、これに伴う遺物が出土していないため、明らかにすることはできない。

周辺の古墳時代の遺跡をみると、空長古墳群、池の内古墳群、権地古墳などがある。これらは、概ね5世紀代に比定されるものであり、本遺跡は、現在までのところ、この地域で古墳時代の最古に位置づけられるものである。

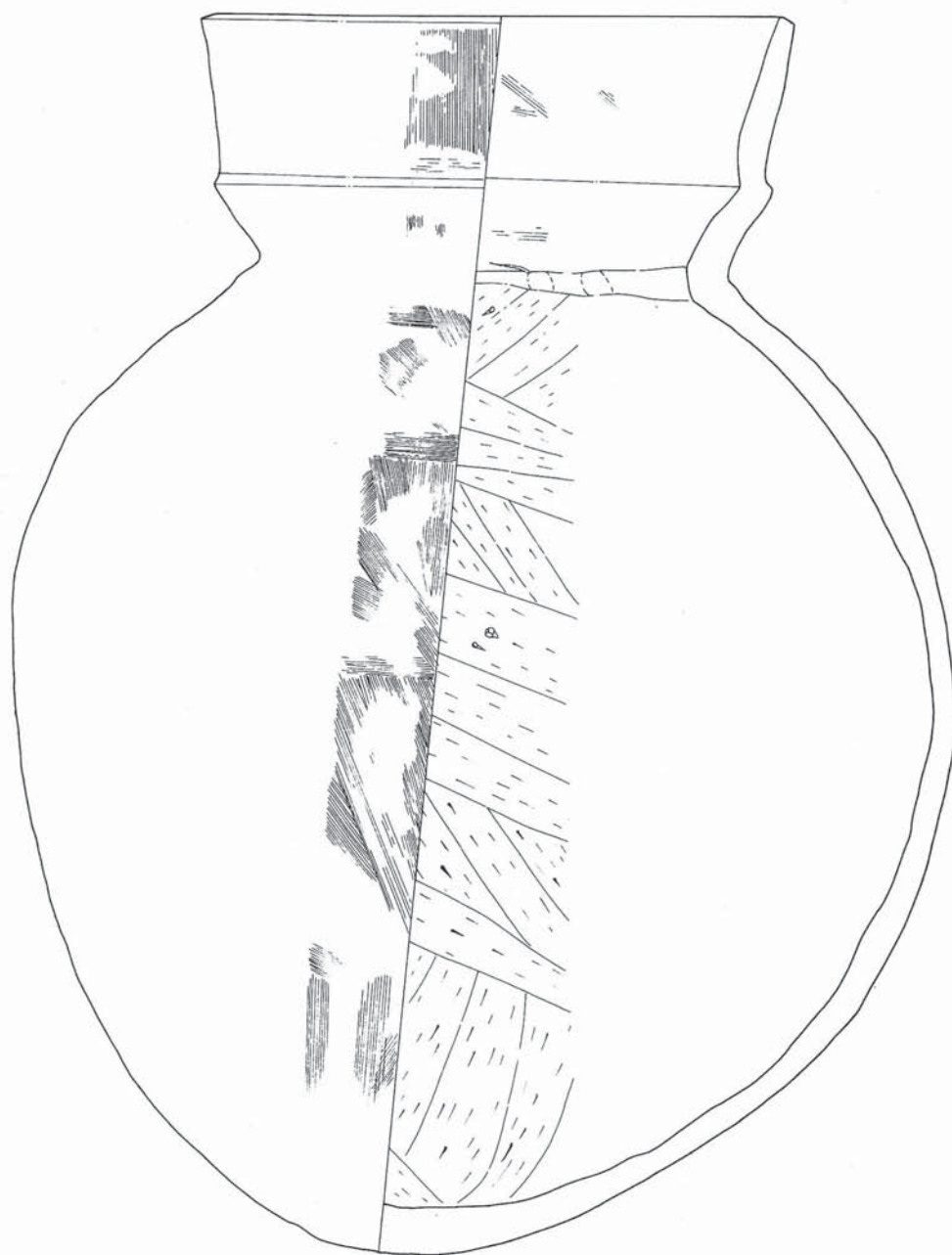
面 図



第37図 亀岡遺跡遺構配置図



第38図 亀岡遺跡箱式石棺（上），壺棺（下）実測図



第39図 亀岡遺跡出土土器実測図

図 版



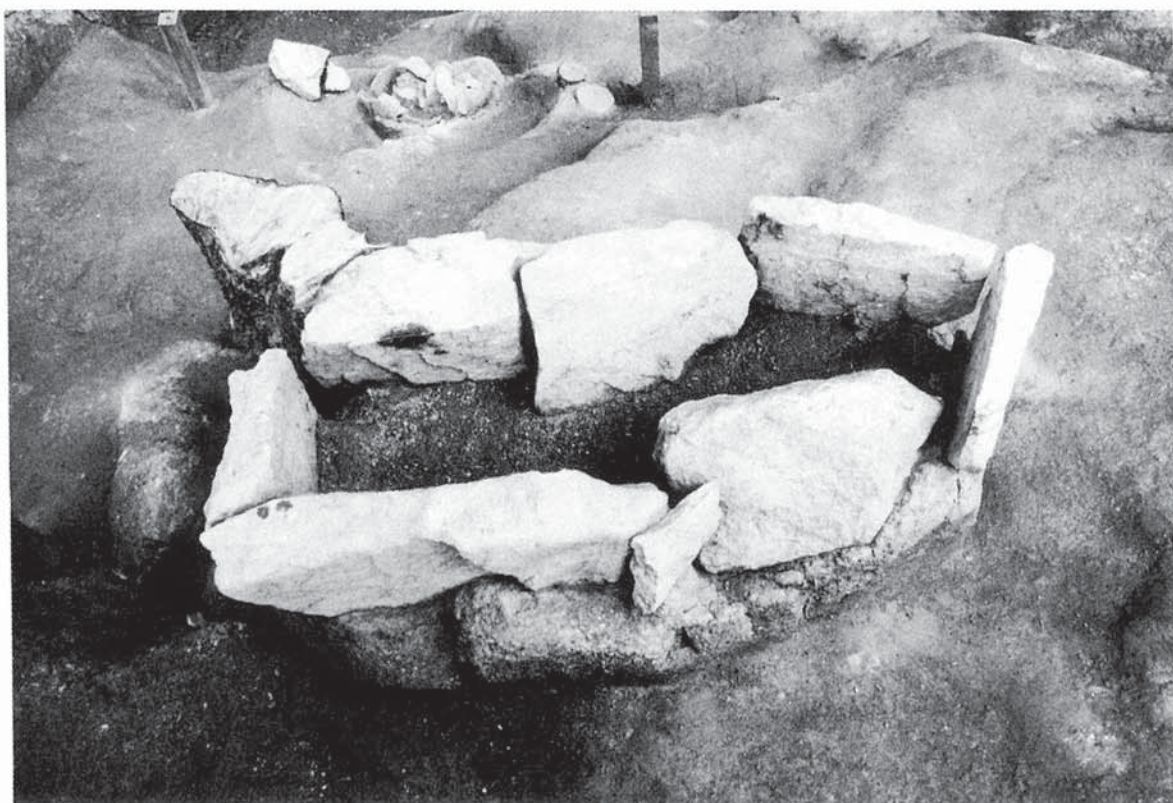
a. 亀岡遺跡遠景（北から）



b. 亀岡遺跡近景（南から，調査後）



a. 亀岡遺跡箱式石棺



b. 同上（開棺後）



a. 亀岡遺跡甕棺



b. 亀岡遺跡出土土器